

横山弥枝 学位論文審査要旨

主 査 尾 崎 米 厚
副主査 松 浦 治 代
同 黒 沢 洋 一

主論文

Skipping breakfast and risk of mortality from cancer, circulatory diseases and all causes: Findings from the Japan collaborative cohort study

(朝食欠食とがん死亡・循環器疾患死亡・総死亡リスク：JACC Studyからの知見)

(著者：横山弥枝、大西一成、細田武伸、天野宏紀、大谷眞二、黒沢洋一、玉腰暁子)

平成28年 Yonago Acta medica 掲載予定

参考論文

1. 医学科学生に対する福祉教育の実践に関する研究—ストレングスモデルの学習に関するパイロットスタディ2年目の実践—

(著者：細田武伸、横山弥枝、穆浩生、大西一成、大谷眞二、黒沢洋一)

平成25年 鳥取大学教育研究論集 3巻 69頁～75頁

2. Assessment of effects of air pollution on daily outpatient visits using the air quality index

(日々の外来患者来診における空気質指数を用いた大気汚染影響の評価)

(著者：穆浩生、大谷眞二、岡本幹三、横山弥枝、徳嶋靖子、大西一成、細田武伸、黒沢洋一)

平成26年 Yonago Acta medica 57巻 133頁～136頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は文部科学省科学研究費補助金による大規模コホート研究のデータを用いて、朝食欠食とがん死亡・循環器疾患死亡・総死亡との関連について、Cox比例ハザードモデルによる多変量解析を行ったものである。1998年から2009年まで追跡した110,585人のうち、脳血管疾患、心疾患の既往歴のある人、調査開始から5年以内の死亡、朝食の喫食状況に回答しなかった人を除いた83,410人を調査対象者とした。年齢、喫煙状況等の交絡因子を調整した多変量解析の結果、朝食喫食群に対する欠食群の死亡リスクは、男性の循環器疾患死亡および総死亡、女性の総死亡で有意に増加した。本論文の内容は、年齢や喫煙等の交絡因子を調整しても、朝食欠食は、日本人男性において循環器疾患死亡と総死亡、日本人女性において総死亡のリスクを高めることが示唆され、明らかに学術水準を高めたものと認める。